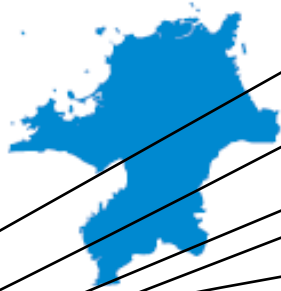




収





10

11

12

13



本県果樹の平成21年度栽培面積は7,550ha（全国9位）、産出額は222億円（全国10位）となっています。

品目別では、かき（栽培面積2,070ha：全国2位）やうんしゅうみかん（栽培面積1,950ha：全国8位）、ぶどう（栽培面積981ha：全国6位）を始めとしてキウイフルーツ（栽培面積302ha：全国2位）やいちじく（栽培面積136ha：全国2位）等、産地の長を活かした生産を展開しています。

しかしながら、生産農家の高齢化や後継者不足に加え、燃油や農薬、肥料価格の高騰等の生産コストの増加、温暖化による生産環境の変化により果樹農家の経営は厳しさを増しており、果樹全体の栽培面積は、最近5年間をみても820ha減少しています。

また、消費者の食生活や嗜好の変化に伴い、国内における果実の消費量は減少しています。しかし一方で、海外での県産果実の販売は、アジアを中心とした輸出により、拡大しつつあります。

こうした状況を踏まえ、福岡の果樹産地の振興を図るためには、果樹農家の経営体質の強化と消費者が求める高品質な果実生産が喫緊の課題となっています。

◎ 「収益性の高い果樹農業の実現」を目指して、次のことに取り組めます。

- ・ 「とよみつひめ」などのブランド化を加速
  - ・ 施設や省力機械の導入により、安定生産を拡大
  - ・ 輸送時の品質・鮮度保持による高品質な商品の供給
  - ・ 「とよみつひめ」、「秋王」、「早味かん」等の優良品種の生産を拡大
  - ・ シートマルチ栽培や園地区分で、高糖度果実の生産を拡大
- 
- ・ 雇用型経営の導入や優良園地の集積により、担い手の経営規模を拡大
  - ・ ジョイント整枝等を活用し、園地の改植を促進
  - ・ 園内道整備や傾斜緩和等による省力・低コスト化を支援
  - ・ 鳥獣被害対策の実施
- 
- ・ 荷姿変更やパッケージセンター設置により、多様化する販売に対応
  - ・ 果実加工品の開発や6次産業化の推進により、加工需要を拡大
  - ・ 加工向け用果実の計画的な供給を実施
  - ・ 農業生産工程管理の強化等により、安全・安心を確保
  - ・ アジアを中心に輸出を促進
- 
- ・ 若い世代を中心に、県産果実の特徴や機能性をPRし、認知度を向上
  - ・ 県産果実の学校給食への提供や食育との連携で県産果実への理解を促進



本県は、栽培面積1,950ha（全国第8位）の主産県であり、優良品種への転換や高品質な果実生産に取り組むとともに、消費者の食生活や嗜好の変化に対応するため、高い基準で厳選したみかんの販売を行っています。

しかし、それ以外のみかんについては、食味や外観のばらつきによる価格の低迷を招いております。

今後は、消費者から求められるおいしいみかんを生産・販売するために、優良品種の早期導入と品種の特性を十分に活かせる生産対策の強化が急務となっています。

---

消費者のニーズに対応したみかんを生産するため、本県の新しい優良品種「北原早生」及び9月下旬に販売する県育成の「早味かん」の栽培面積を早急に拡大します。

また、「福岡みかん」の品質を向上させるため、シートマルチ栽培技術の積極的な導入により、高糖度みかんの出荷量を増加します。

---

品種の組み合わせによるかんきつの長期間販売を実現するため、寒害を受けにくい地域を中心に、「不知火」や「南津海」、県育成の「果のしずく」等の中晩柑品種を導入します。




本県は、栽培面積2,070ha（全国第2位）のかきの主産県ですが、ここ数年は消費量の減少や価格の低迷などにより、販売で苦戦を強いられており、より消費者のニーズにあったかきを生産することが急務となっています。

このため、「富有」中心の品種構成を見直し、良食味で食べやすい優良品種を主体とした品種構成への再構築が求められています。

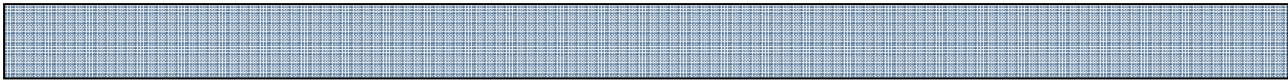
経済性が低い「伊豆」や「松本早生富有」に加え、高樹齢化により生産性が低下した「富有」を、世界で初めて開発した種がない良食味の完全甘がき「秋王」や早生の優良品種である「早秋」へ計画的に転換します。

「秋王」については、苗の大量増殖技術や密植栽培による早期成園化技術及び結実安定技術を確立し、平棚栽培の導入により早期に普及します。

主力品種である「富有」の価格低迷を改善するため、比較的販売単価が高い冷蔵出荷の割合を増加していきます。

品種構成の再構築を図る過程において、未収益期間の収益を確保するため、「とよみつひめ」等の園芸品目を導入した経営の複合化を推進します。



本県は、栽培面積981ha（全国6位）の主産県ですが、消費者の食生活や嗜好の変化に対応するため、大きくて食べやすい種なし「巨峰」や「ピオーネ」などの「種なし大粒系品種」のさらなる生産拡大が求められています。

一方で、温暖化による着色低下や露地栽培を中心とした病害の発生による品質・収量の低下も課題となっています。

---

消費者ニーズの高い種なし「巨峰」や「ピオーネ」に加え、皮ごと食べることができる「シャインマスカット」等の栽培面積を、省力化技術である短梢せん定栽培の導入促進により拡大します。

---

高温下でも着色しやすい黒色系品種を、早期に育成し、導入します。また、緑色系品種の「シャインマスカット」の導入を推進するとともに、種なし栽培においては、環状剥皮技術の普及も引き続き推進します。

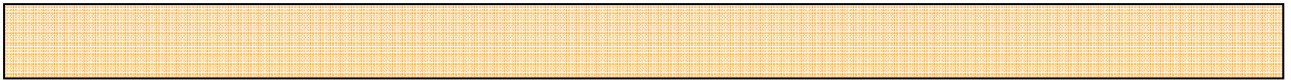
---

病害発生の低減による高品質果実の安定生産を目的とした施設化を促進します。



	ha	ha





本県は、栽培面積503ha（全国9位）の主産県ですが、高樹齢化が進んでいるため、改植更新と併せて優良品種への転換を進めています。しかし、「改植時の未収益期間が長い」、「転換先の優良品種が少ない」ことが、改植の妨げとなっています。

また、気象災害や病虫害被害により、収量が安定しないことも課題となっています。

---

省力化を目的とした平行整枝、未収益期間の短縮も期待できるジョイント整枝を活用し、高樹齢の園地を、計画的に優良品種へ改植します。

---

防風ネットの整備や平棚の強化、防蛾灯の設置による収量の安定化を図ります。

---

比較的単価が安定している「幸水」や「あきづき」等の優良品種への更新を推進します。併せて、7月に出荷できる高温障害や病害に強い優良早生品種を早期に育成し、導入します。



	ha	ha

本県は、栽培面積302ha（全国2位）の主産県で、手軽に食べられる果実として消費者から好評を得ています。

今後は、さらなる飛躍を目指す中、高糖度キウイ（博多甘熟娘<sup>うれっこ</sup>、博多甘香<sup>あまか</sup>）の安定供給が求められています。

また、高樹齢化に伴う改植や優良品種の探索・導入による生産力強化も産地の課題となっています。

---

園地毎の栽培管理に基づいて区分集荷し、光センサーで選別することにより、安定した果実品質の高糖度キウイを供給します。

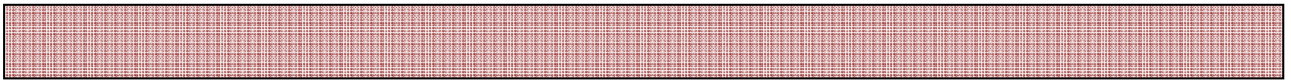
---

産地を維持していくためには、生産性が低下した園地の改植が必要であるため、連作障害回避のための技術を確立します。

---

糖度が高く食味が良好な早生系大玉の優良系統を探索し、導入を図ります。



本県は、栽培面積136ha（全国2位）の主産県であり、県育成品種「とよみつひめ」の面積拡大により年々増加傾向です。

適期収穫の徹底や輸送技術の改善により、「とよみつひめ」を中心として、高単価で取引可能な京浜地域への出荷が増加していますが、出荷量の不足、降雨による商品化率の低下は依然として問題となっています。

---

収穫時期の降雨による商品化率の低下を抑え、生産を安定させるため、ハウス、トンネル等の施設栽培を拡大します。また、シートマルチ栽培の導入により、高糖度で着色の良い果実を安定生産します。

---

パッケージセンターの導入を進め、調整に係る労力を軽減することにより、高品質な果実の生産を拡大するとともに、マスコミ等の活用による積極的なPR活動により、認知度向上を図ります。

---

京浜地域への出荷量を拡大するため、光殺菌装置を活用したトラック輸送や出荷資材の改善により低コスト大量輸送体系の確立を図ります。

---

県育成の株枯病抵抗性台木品種「キバル」の導入により、株枯病発生ほ場における改植を促進します。



	ha	ha
	ha	ha

本県産のももは、天候の影響による年次毎の品質格差が大きいことから収益性が安定していません。また、高樹齢化に伴う樹勢低下が問題になっています。

高品質化の取り組みと併せて、品種構成を再編成するための改植・更新を行う必要があります。

---

施設化や平棚栽培の導入により、収量安定、高品質な果実生産を促進します。

---

優良な早生品種・系統の探索を進め、本県に適した品種へ改植します。



すももは、「季節を感じる果物」として一定の需要がある品目ですが、結実が不安定であるため、生産量の年次格差が著しいことが課題となっています。

また、近年では、高糖度な高品質果実の生産が求められています。


---

平棚栽培及び施設栽培の導入により、収量安定・高品質な果実生産を促進します。

---

優良品種の探索を進め、「よりおいしい、すももの産地」を目指します。





大梅から小梅まで幅広い消費者のニーズに応じた品種の選択と霜害に遭いにくい適地での栽培を推進します。また、省力化が図れる低樹高栽培を導入します。

急傾斜地で多く栽培されており、樹高も高いことから、省力化が図れる低樹高栽培を導入します。

既存産地に、栽培技術指導の徹底により、高品質果実の生産を推進します。

中山間地域の既存産地を中心として、生果流通と併せて用途別加工対策の充実を図ります。

振興品目として各産地の果樹産地構造改革計画に位置づけられたブルーベリー等の特産果樹については、需要に合わせた適正生産を図ります。

優良園地の担い手への集積を推進し、生産基盤の整備や改植等の取り組みを推進します。

樹園地は、その多くが中山間地域にあることから、生産基盤の整備は遅れています。さらに、作業性が悪い樹園地が多く存在している地域では、高齢化と相まって耕作放棄地の増加を招いています。

このため、園地データを活用して、維持すべき優良園地を明確化するとともに、園地の流動化による担い手への集積を図り、雇用を積極的に活用することで経営規模の拡大を推進します。

維持すべき樹園地については、省力化や低コスト化及び作業の安全性確保を行うために、園地の傾斜緩和や園内道整備を図るとともに、整備後に高性能省力機械の導入を推進します。

また、生産性が低い園地は、優良品種・品目へ改植します。

みかんやぶどう等の加温施設栽培では、多重被覆やヒートポンプ、循環扇及び排熱回収装置の導入により、燃油使用量の低減を図ります。

自然災害による減収を補填するためのセーフティーネット措置として、果樹共済への加入を促進します。

カラスやヒヨドリ、イノシシを中心とした果実被害が22年度で約4億5千万円に達しており、侵入防止柵や防鳥ネットの整備の他、自衛のための捕獲従事者の育成を推進します。

また、農地や集落の環境整備、緩衝帯の設置等の生育環境整備を併せて推進します。



県産果実に対する購入形態や安全・安心などの消費者ニーズに対応するため生産・販売体制を整備します。

また、新たな需要拡大を図るため、加工品開発を支援していきます。

食の安全・安心に対する意識の高まりに応じていくため、農業生産工程管理体制の構築を支援するとともに、減農薬・減化学肥料栽培やエコファーマーへの認証等の取り組みを推進します。

現在、JAの出荷の主力である大量ロット販売を継続する一方で、販売の多様化にも対応するため、選果・選別の労力軽減や、消費者や実需者が求める規格・荷姿に対応できるパッケージセンターの設置を推進し、県産果実の販売体制を強化します。

また、高品質果実生産のために、非破壊式光センサーや光殺菌装置等を整備します。

果実加工は、需要の拡大や中山間地域の活性化、果樹産地の機能強化の上でも重要であるため、今後も果実加工の開発を支援します。

また、第2次・第3次産業との一体的な取組により、6次産業化を推進します。

うんしゅうみかんを主体とするかんきつ類の加工用仕向け果実は、生果の需給調整機能を有していることから、生産団体と連携した計画的な原料確保を図ります。

近年、経済成長が著しいアジア諸国をターゲットにし、福岡農産物通商(株)を通じて安全・安心で高品質な県産果実の輸出を促進します。



県産果実の消費拡大を図るため、関係機関・団体との連携を進め、消費者へ果実の持つおいしさや健康に関する情報提供及び県産果実への理解促進を図ります。

全国的な運動である「毎日くだもの200g運動」を推進し、健康維持などに有効な果実の機能性や摂取目標量、果実の選び方・食べ方など様々な情報発信を行っていきます。



県産果実の認知度向上のため、ファッションや美容等の新たな業界に情報発信を行うことで、特に消費の落ち込みが激しい若者世代へのPRを強化します。

学校等と連携して、幼少期からの県産果実の摂取を促進するとともに、果実の機能性について幼児・児童・生徒や保護者に、理解促進を図ります。





県内29地域、89産地（平成23年3月時点）において産地の目指すべき姿を産地構造改革計画として策定し、実現に向けた取り組みを行っています。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 担い手の考え方、数的目標、目標達成に向けた手段</li> <li>② 担い手以外の産地構成員の役割</li> <li>③ 新規参入を含めた担い手の確保 等</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 販売戦略の構築</li> <li>② 消費拡大の取り組み強化 等</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 優良園地の明確化や担い手の集積</li> <li>② 優良品種、品目への転換による生産基盤の強化</li> <li>③ 労働力を確保するための取り組み</li> <li>④ 気象災害等に強い産地づくりの実践 等</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 経営支援の強化</li> <li>② 安全・安心な果実づくり対策 等</li> </ul>

※担い手の考え方

- 産地の中心的役割を担う農業者であり、産地が一体となって育成を図るもの
- 果樹産地の構造改革を推進する観点から、10年後も果樹生産を続け、産地の戦略に基づく取り組みを実施する農家

		1	
		3	
		7	
		3	
	4	14	
		4	
		4	
	2	8	
		6	
	1	6	
		4	
		1	
		4	
		1	
		1	
	5	11	
		3	
		1	
		1	
	3	5	
		5	
		2	
		1	
	3	8	
		3	
	1	3	
		2	
		10	
		1	
	3	13	
		9	
		1	
		1	
	3	11	
		3	
		5	
		1	
		1	
	4	10	
	29	89	

## 10

		(kg/10a)	/10a						
					4 1 10 30			4 1 10 30	
	日南1号 北原早生 宮川早生 石地 青島温州	3,000 3,000 3,500 3,500 3,500	157 174 181 181 177	15℃以上 18℃以下		-5℃以上			腐敗果の発生や品質低下を防ぐため、11月から収穫前において降霜が少ないこと。
	不知火 南津海	4,000 3,500	281	15℃以上		-5℃以上			
	巨峰 種なし巨峰 ピオーネ	1,200 1,500 1,500	299 332 386	7℃以上	14℃以上	-20℃以上(欧州 種は-15℃以上)	1,600mm以下(欧 州種は1,200mm以下)		枝枯れ等を防ぐため、凍害及び雪害を受けやすい北向きの傾斜地での植栽は避けること。
	幸水 豊水 あきづき	3,000 3,500 3,500	332 253	7℃以上	13℃以上	-20℃以上			花器や幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果発芽期において降霜が少ないこと。
	日川白鳳 あかつき	2,000	428	9℃以上	15℃以上	-15℃以上	1,300mm以下		花器や幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果発芽期において降霜が少ないこと。
	富有 早秋 秋王	2,000 2,000 2,000	207 170 186	13℃以上	19℃以上	-13℃以上			新梢の枯死を防ぐため、発芽・展葉期において降霜が少ないこと。
	国見 筑波	360	55	7℃以上	15℃以上	-15℃以上			新梢の枯死を防ぐため、展葉期において降霜が少ないこと。
	南高 甲州最小	2,000 1,200	198	7℃以上	15℃以上	-15℃以上			幼果は凍害を受けやすいので、幼果期に降霜が少ないこと。
	大石早生李 ソルダム	1,500	332	7℃以上	15℃以上	-18℃以上			花器や幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。
	ヘイワード	2,500	166	12℃以上	19℃以上	-7℃以上			新梢の枯死を防ぐため、発芽・展葉期において降霜が少ないこと。
	茂木 田中	1,500	816	15℃以上		-3℃以上			傷害果や病害果の発生を防ぐため、強風の発生が少ないこと。
				6~14℃	13~21℃	-25℃以上	1,300mm以下		花器や幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。
	榊井ドーフィン 蓬萊柿 とよみつひめ	2,400 2,200 2,200	407	13℃以上		-5℃以上			収穫期に昼夜温格差の少ないこと。発芽・展葉時に降霜が少ないこと。

○

		(a)	(a)	(kg/10a)	/kg	/10a			
1  ( 3 )	1	350	60	3,000	200	157			
			60	3,000	250	174			
			130	3,500	210	181			
			50	3,500	210	181			
			50	3,500	250	177			
						6,114	1,246	25,705	9,390
( 3 )		280	70	2,000	300	170			
			80	2,000	400	186			
			60	2,000	180	207			
			70	2,500	310	203			
						5,333	956	18,185	7,915

○

		(a)	(a)	(kg/10a)	/kg	/10a			
12			10	1,700	1,560	286			
12			10	1,500	1,600	398			
1		150	20	1,500	1,300	398			
			30	1,600	1,200	333			
			40	1,500	850	357			
			40	1,500	790	386			
3						5,446	407	24,552	5,646
			30	3,000	580	325			
			70	3,000	450	349			
		200	50	3,000	350	332			
			50	3,500	280	253			
3						6,336	1,194	24,820	9,502

○

		(a)	(a)	(kg/10a)	/kg	/10a			
1	1	250	30	3,000	200	157			
			40	3,000	250	174			
			40	3,500	210	181			
			30	3,500	210	181			
			50	3,500	250	177			
			60	2,500	340	166			
2						4,309	640	19,420	6,658
2.5		200	40	2,000	300	170			
			50	2,000	400	186			
			30	2,000	180	207			
			30	2,500	310	203			
			50	1,500	790	386			
									4,764

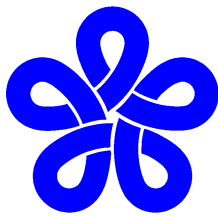
		(a)	(a)	(kg/10a)	/kg	/10a			
2		200	30	2,000	300	170			
			40	2,000	400	186			
			40	2,000	180	207			
			60	2,500	310	203			
			30	2,200	730	407			
						4,516	830	15,908	5,332

		/kg	(kg/10a)	( /10a)	( /10a)	( /10a)	
		1,100	2,100	2,310	725	331	
		450	2,000	900	400	428	
		630	1,800	1,134	346	475	
		360	1,500	540	226	332	

	21		27				32			
	ha		ha				ha			
	1,950	36,000	1,850	36,100	95	100	1,810	35,300	93	98
	17	208	16	205	94	99	15	192	88	92
	981	10,100	952	10,100	97	100	930	9,500	95	94
	503	11,500	488	11,400	97	99	480	10,500	95	91
	120	1,270	114	1,260	95	99	112	1,240	93	98
	53	197	48	189	91	96	43	169	81	86
	2,070	21,800	1,990	21,400	96	98	1,940	21,200	94	97
	288	307	270	289	94	94	260	278	90	91
	428	1,770	410	1,750	96	99	400	1,660	93	94
	101	886	96	845	95	95	93	828	92	93
	302	6,150	299	5,770	99	94	330	6,540	109	106
	136	1,370	160	1,830	118	134	171	2,310	126	169
	6,949	91,558	6,693	91,138	96	100	6,584	89,717	95	98
	601	5,342	597	5,362	99	100	596	5,083	99	95
	7,550	96,900	7,290	96,500	97	100	7,180	94,800	95	98







	4700500